

第3回宇治市水道事業経営審議会議事録

会議名	第3回宇治市水道事業経営審議会
日時	令和7年11月6日(木) 15時00分～16時45分
場所	宇治市産業会館 1階 多目的ホール
出席者	<p>(委員) 西垣会長 向畑副会長 清水委員 北村委員 鈴木委員 山田委員 島津委員 辻川委員 星委員</p> <p>(事務局) 蒲原上下水道部長 岡部上下水道部副部長 大井上下水道部技術参事 川北上下水道総務課長 井上上下水道総務課担当課長 大下営業課長 津田工務課長 山本配水課長 藤井水管理センター場長 藤原上下水道総務課水道経営係長</p> <p>(傍聴者) なし</p>
1	開会
2	上下水道部長挨拶
3	<p>議題</p> <p>ビジョン後半の投資事業と収支見通しについて</p> <p>事務局より、ビジョン後半の投資事業と収支見通しについて説明を行い、部会長より第2回、第3回専門部会の開催結果について報告を行った。</p> <p>質疑応答</p> <p>(委員) 用途別から口径別に移行した場合、収入はどうなるのか。また、一般的な家庭の料金はどのように変化するのか。</p> <p>(事務局) 収入は同程度になるようにしたい。一般的な家庭の料金に極力影響がないような料金体系にしたい。</p> <p>(委員) 上下水料金が、市町村によって大きく異なるのはなぜか。</p> <p>(事務局) 施設数や管路延長によって、維持管理にかかる費用が大きく変わってくる。小さい市町村で集落が固まっていれば管路は少なく済むし、下水道が通っていないところもある。ただし、どの市町村も上下水ともに経営が厳しく、料金改定も含めた検討を必要としていると聞いている。</p> <p>(委員) 久御山町はどのようにして経常収支比率を100%以上にできたのか。宇治市が100%以上になるためにはどの程度の料金改定が必要か。</p> <p>(事務局) 久御山町は20%台の料金改定であったと記憶している。宇治市の場合、5年間で44億円の赤字を水道料金だけで補おうとすると、30%台半ばになる。</p> <p>(会長) 久御山町は比較的コンパクトなまちであるが、早くから耐震化に取り組んできており、大変厳しい議論を経て料金改定となった。</p> <p>(委員) 布設から60年を経過した管路が4.2kmあるとのことであるが、すでに</p>

更新工事には着手しているのか。また、このような厳しい状況の中で、企業誘致などで新たに給水収益が増えるなど、水道事業として希望が持てるようなことはあるか。

(事務局) 基本的には60年を経過した管路から更新工事を行っている。避難所等の重要な施設に接続する管路のうち、耐震性のない管路については、60年を経過する前でも更新工事を行っている。

宇治市では安田町で企業誘致を行っており、参入する企業がどれだけの水を使われるかを把握できるよう努めているところである。

(委員) 令和8年度において、企業債の利息が収入のうち約5%を占めるが、10年後には約15%になる。10年間の投資を15年間に延ばして、企業債の利息を減らすことで、できるだけ値上げをしない方がいいのではないか。

(事務局) 皆様に安全安心な水を提供するためには、更新、耐震化は取り組むべきであり、これは水道事業者としての責務であると思っている。そのような中、投資をすればするほど、減価償却費が上がる。利息については、貯金があれば企業債を発行しなくても投資が可能であるが、現在はそのような状況にはない。

(会長) 管路については、整備後60年使用することとなる。現在使用している人と将来使用する人の負担のバランスを考慮する必要がある。また、現在80%を起債して資金調達しているということであるが、80%というのはまだ金利が低かった10年程前に議論したものであることから、そういったことも考慮してどの程度の料金改定をお願いしていくかを検討していかななくてはならない。

(委員) 80%起債している事業体はほとんどない。しかし、30%台半ばの料金改定ではおそらく起債を減らすことができないので現実的ではない。料金改定をして少し財政的に余裕が出てきたところで、起債の割合を少しずつ減らしていくのが現実なところではないか。

(委員) 管路の更新目標が60年となっているが、その管種はダクタイル鋳鉄管で、強度などが劣る鋳鉄管等は優先して更新していくということによいか。

(事務局) お見込みのとおり。

(委員) 全国的な流れの中、宇治市でも公衆衛生の向上を図るという当初の目的が達成されているのであれば、用途別から口径別の料金体系へと移行してもいいのではないか。移行するにあたって、費用や時間はどれくらいかかるのか。

(事務局) システム開発等に約半年かかる。一般家庭の方にかかる費用はない。

(委員) 年度末に工事が集中していると思う。今後の工事の予定は決まっているのか。

(事務局) 水道施設における今後5年間の整備箇所は決まっている。その他の工事を含

めて、公共事業の予算の性質上、年度ごとの発注になり、工事の完成が年度末になることが多いことから、年度末に工事が集中しているように感じられることがあるかもしれない。また、水道の工事は断水ができないため、概ね仮設のルート施工、本設の施工、仮設ルート撤去の順で整備をすることになるため、工事が長期間と感じられることがあるかもしれない。

(会 長) 口径別へ移行する際には、一般家庭への影響が大きくならないよう、激変緩和の措置等の配慮をお願いしたい。また、料金改定については、市民の理解を得ながら進める必要がある。過去の料金改定が十分でなかったこと、物価上昇の影響、投資の影響等の要因なども含め、丁寧な広報が不可欠である。口径別への移行、水道施設の現状、料金改定が何に生かされるかなどについてもホームページ等で分かりやすく広報し、市民の理解を得るように努めていただきたい。

4 その他

5 閉会